

# 1979

◀前後キャストホイールと通常のリヤショックを装備する中間グレードの79年型GS1000HN(車名は単にGS1000)。欧州仕様は低いハンドルバーが特徴で、車体色はキャンディジブシーレッド3、キャンディフロリダブルー、ブラックの計3色が存在する。



▲79年型GS1000EN。前後キャストホイールとエア加圧式リヤショック、グラブバーを装備し、トップブリッジにもカバーを備えた最高級グレード。欧州仕様の車台番号はスポークのGS1000Nが106520～で、キャストのGS1000HNとENは共通の520447～となる。

79年の年度記号はNとなる。欧州仕様では前年同様GS1000N/HN/ENの3グレードが設定され、いずれもキャブレターをVM26SSからVM28SSに換装、最高出力が87→90hpへと増大している。またパーツリストからシリンダーおよびヘッド、スタッドボルトの強化が行われ、吹き抜け対策などが行われている。仕向け地やグレードの違いによる諸元の変更は特にないが、コストダウンのため、タンクとシートカウル側面に設けられていたリブは廃止された。



▲北米向けのスポークホイール仕様GS1000Nは前輪シングルディスクで車体色がキャンディインベリアルマルーンとマーブルルマンブルーの2色。キャストのGS1000ENがパールブラック1色のみで、計3色だ。ともにキャブレターは前年同様VM26SSのまま。  
車台番号はGS1000Nが106772～、GS1000ENが515728～

## GS1000N

# 1980



▲欧州向けの車体色はキャンディジブシーレッド、パールブラック、マーブルカナディアンブルーのほか、フランス仕様のみキャンディフロリダブルーを採用。  
北米向けはキャストホイール+通常リヤサス仕様のGS1000ETのみで、キャンディインベリアルマルーンとジャマイカブルーメタリックの2色設定。  
車台番号は欧州向けGS1000Tのみ=109937～  
欧州向けGS1000HTおよび欧米共通GS1000ET=528747～

最終型となる'80年型の年度記号はTとなり、全世界共通のBS34SSキャブレターを採用。すでに4バルブのGSXが登場しており、前後穴あきのプレーキディスクやマフラーなどに部品の共通化が見られる。スポークホイールのGS1000Tは輸出一般、英、独、豪州仕様のみを設定。これらに加え中間グレードのGS1000HTは仏、伊、スウェーデン、スイス、ベルギーにも輸出。エアサス仕様GS1000ETはさらにオランダ、オーストリーなどにも輸出。  
なお、シートは仕向け地により段付き+グラブバーまたは段なし+タンデムベルトの2種類の組み合わせ。

## GS1000T

# 1979 GS850G

シャフトドライブ仕様はツアラールへと独自の進化を遂げる



## GS850G

'79年型から投入されたシャフトドライブ仕様車でGS750Gと基本構成を同じくする輸出専用車。排気量は843ccに拡大(69×56.4mm)され、22ℓ容量の燃料タンクを装備し乾燥重量は253kg。初期はVM26SSキャブにて77hpを公称したが'80年型でBS32SSキャブに換装、さらにキックシャフトを省略し、プレーキディスクも穴あきに変更された。その後も小改良が行われ、最終的に'80年代半ばまで販売が続けられた。